

# 技術革新と地政学リスクの下での通貨・決済システムの未来

2025年7月31日

日本銀行決済機構局長

武田 直己



1. 米国大統領令の反響
2. 中央銀行デジタル通貨
3. ステ이블コイン
4. 現代の通貨・決済システムの特徴と課題
5. 国際決済インフラの改善
6. リテール決済における中央銀行の責務
7. 決済の未来

# 1. 米国大統領令の反響

---

## ■ 大統領令「デジタル金融技術における米国のリーダーシップの強化」（2025年1月） “Strengthening American Leadership in Digital Financial Technology”

### 1. 中央銀行デジタル通貨（CBDC）推進の禁止

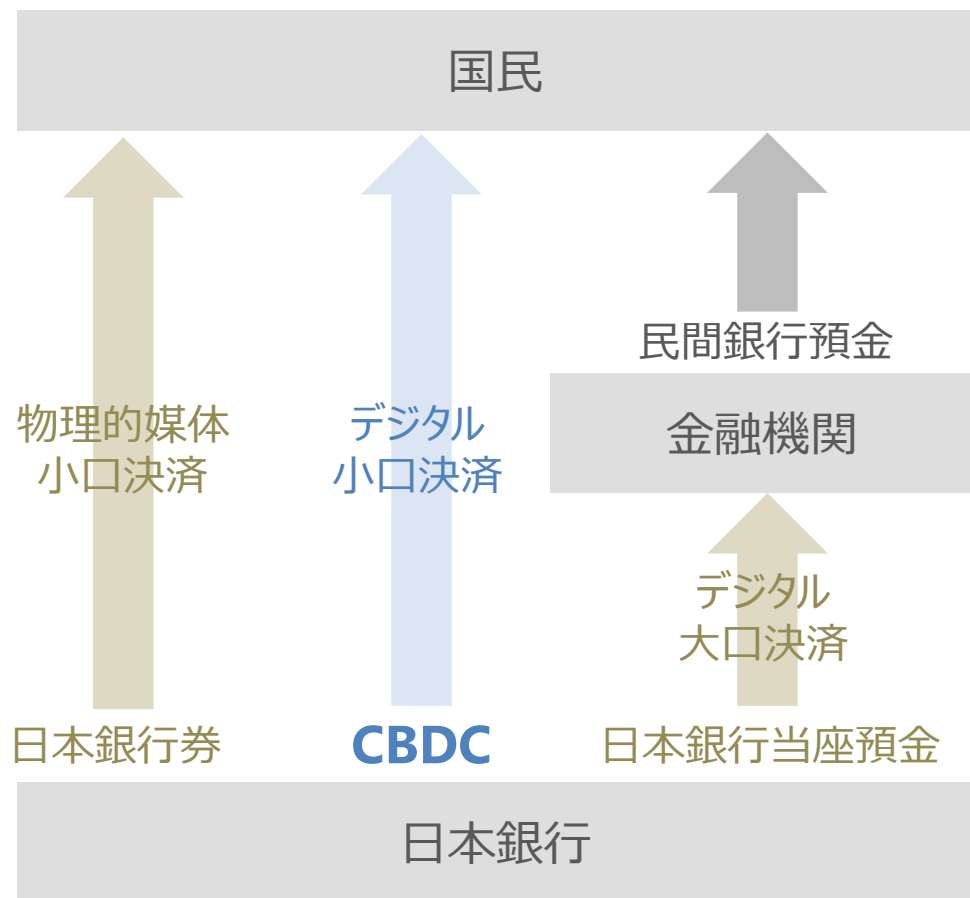
- ✓ 「法律で義務付けられた範囲を除き、政府機関は、合衆国法域内または国外において、CBDCの確立・発行・推進にかかるいかなる行為も行ってはならない」
- ✓ 「法律で義務付けられた範囲を除き、政府機関の合衆国法域内におけるCBDCの創出に関係するいかなる進行中の計画または取組みは直ちに停止し、その発展・実行に向けたさらなる行為を行ってはならない」

### 2. ドル建てステーブルコインの促進

- ✓ 「合法的かつ正当なドル建てステーブルコインの世界的な発展と成長を促進するための行動等を通じて、米ドルの主権を促進し保護する」

## 2. 中央銀行デジタル通貨（CBDC）

### ■ 日本銀行が提供するお金



### ■ CBDCに関する議論の経緯

2010年代

民間のデジタル決済手段の普及、  
現金の流通の減少による、CBDCの検討開始  
(スウェーデン、中国など)

2019年

「リブラ構想」(Facebook社 <当時>)

2020年

「中央銀行デジタル通貨に関する日本銀行  
の取り組み方針」

現在

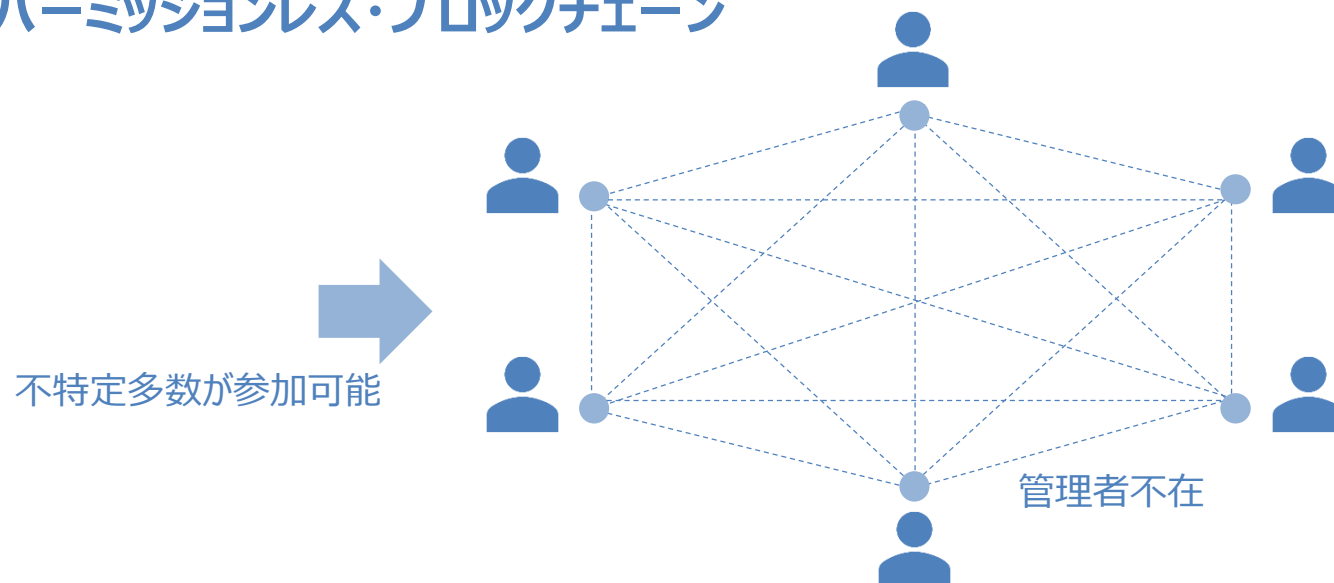
CBDCに関する各国のスタンスに濃淡

### 3. ステーブルコイン

#### ■ ステーブルコインにかかる分類

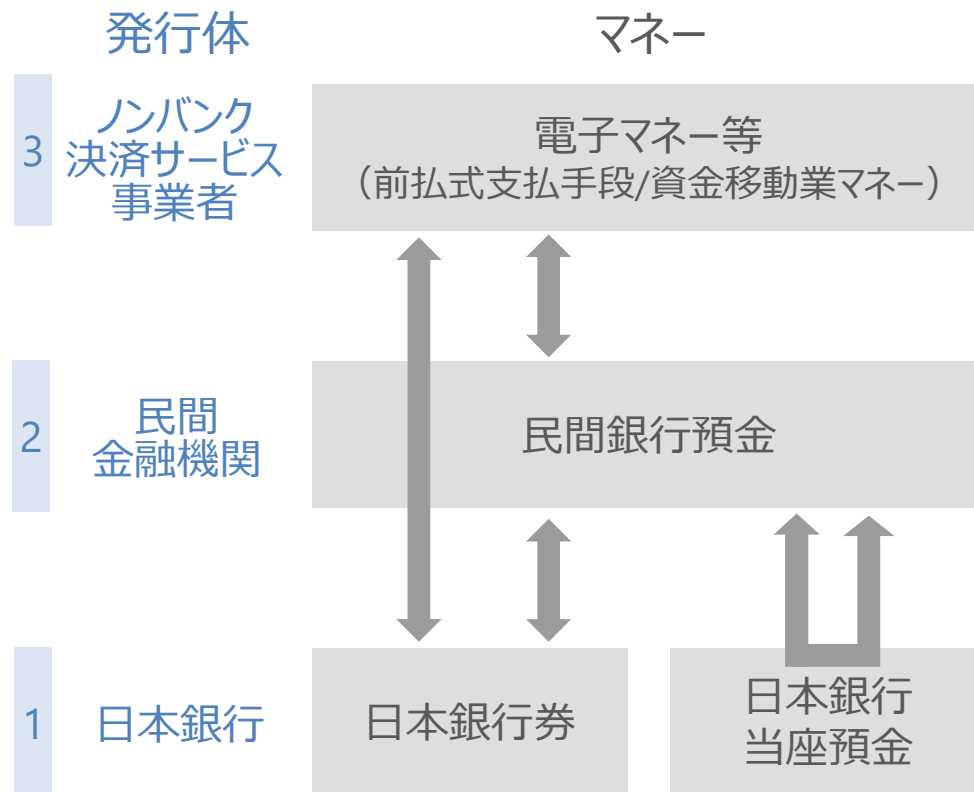
| ブロックチェーン上の<br>資産・マネー | 用途                    | 裏付資産            | 例                  |
|----------------------|-----------------------|-----------------|--------------------|
| 暗号資産                 | 投資・投機                 | 無いものも多い         | Bitcoin            |
| ステーブルコイン             | 暗号資産取引等の<br>待機資金、海外送金 | 暗号資産、アルゴリズム、無し等 | DAI                |
|                      |                       | 暗号資産、法定通貨、国債等   | USDT ( ? )         |
| ペイメント<br>ステーブルコイン    | 決済利用<br>(価値の安定を重視)    | 法定通貨、国債等        | USDC、<br>PaypalUSD |

#### ■ パーミッションレス・ブロックチェーン



## 4. 現代の通貨・決済システムの特徴と課題

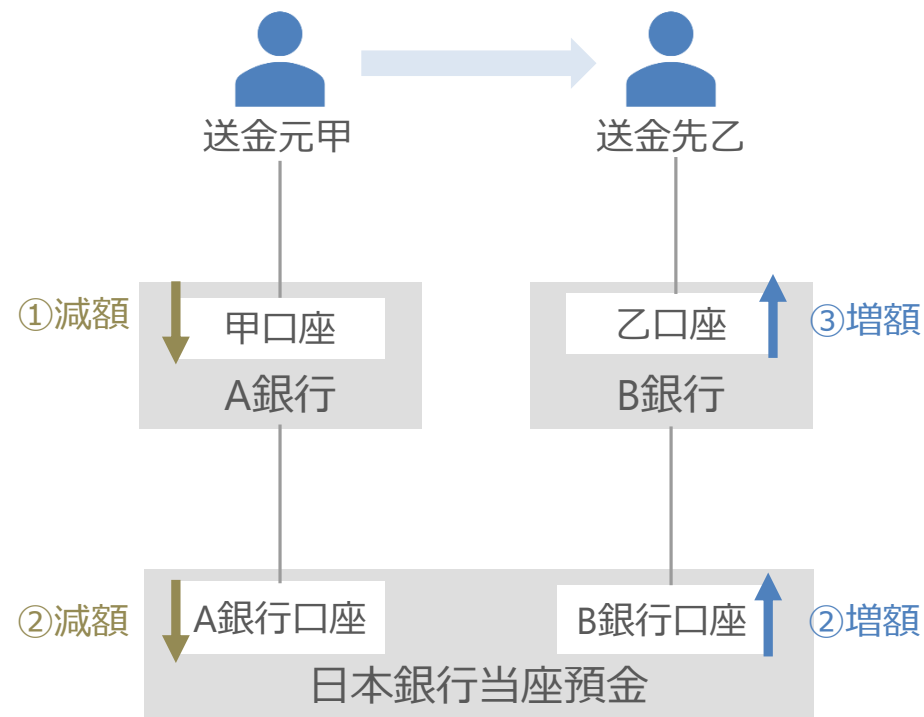
### ■ 伝統的な通貨・決済システム —— 3階層のマネー



(注) 前払式支払手段の場合は原則として払い戻し不可。

### ■ 伝統的なマネーの決済方法 —— マネーの移転の正当性はマネーの 発行者が担保

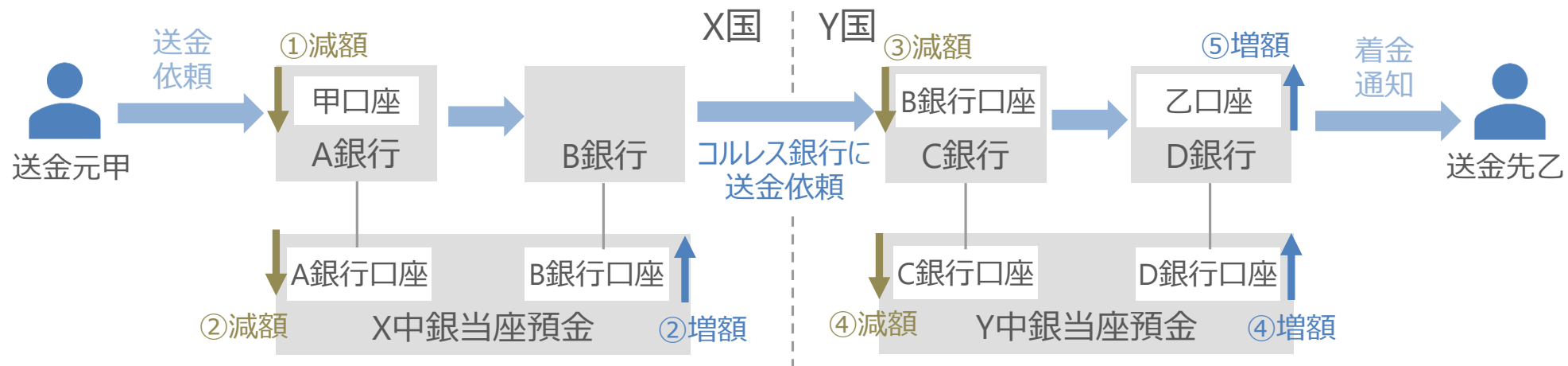
(甲から乙に銀行間送金を行うケース)



(注) 小口内為の場合、銀行間決済においては全銀ネット当座預金を経由 (上図では省略)。

## 4. 現代の通貨・決済システムの特徴と課題

### ■ 国際送金の決済の複雑さ —— 単一の中央銀行の不在



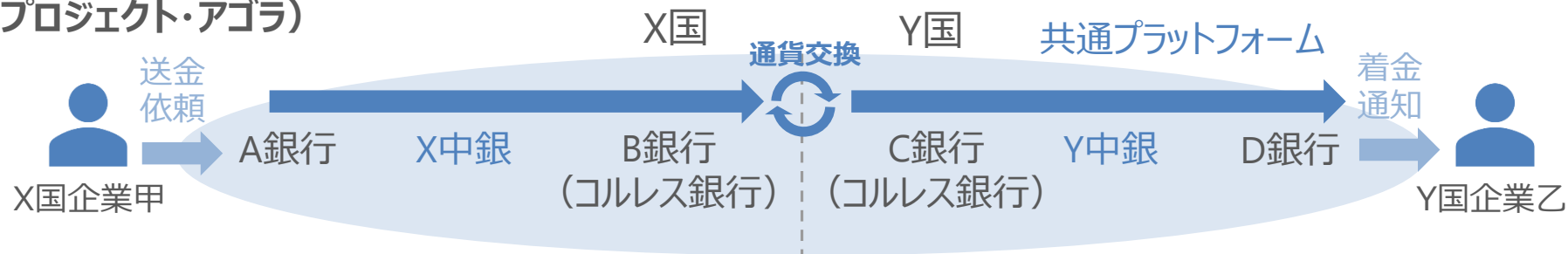
### ■ ステ이블コインの決済方法の特異さ



## 5. 国際決済インフラの改善

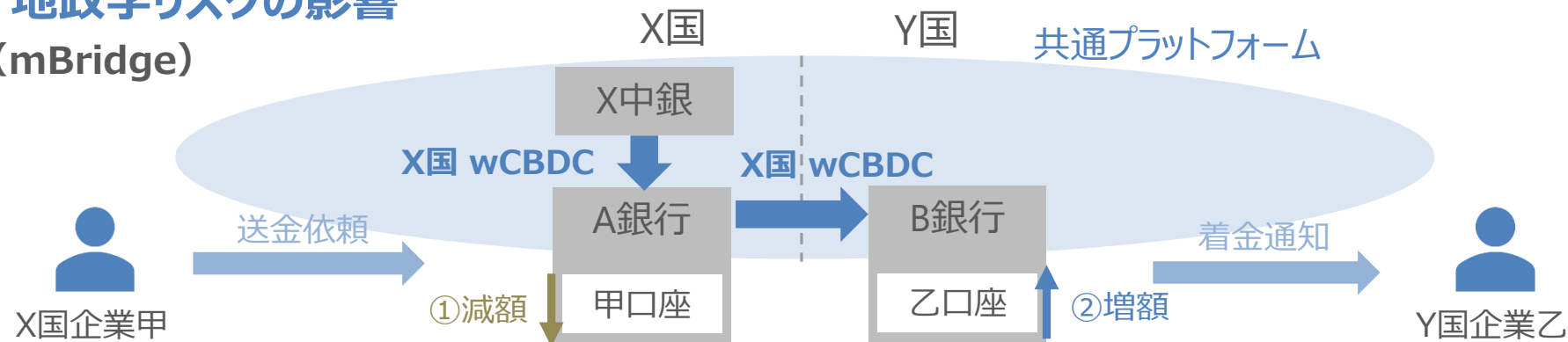
### ■ 銀行預金マネーの対応

(プロジェクト・アゴラ)

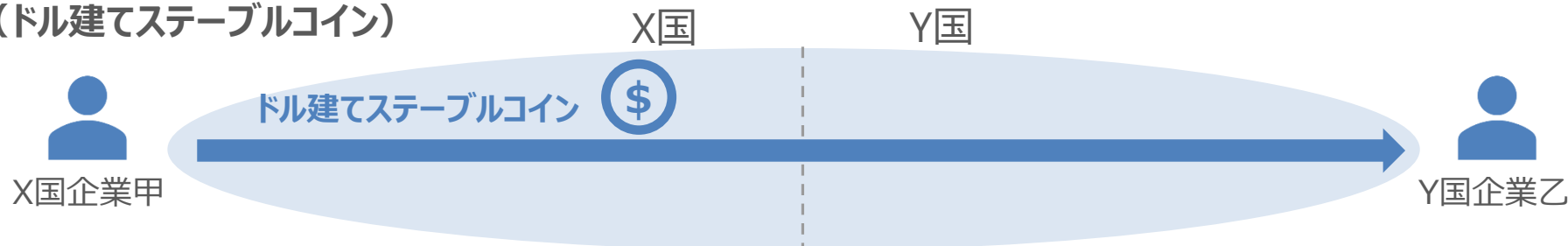


### ■ 地政学リスクの影響

(mBridge)



(ドル建てステーブルコイン)



## 6. リテール決済における中央銀行の責務

### ■ リテール決済に関する各国の取り組み

| 国・地域   | 取り組み                        | 目的                                          |
|--------|-----------------------------|---------------------------------------------|
| 中国     | CBDC                        | 民間デジタル決済手段が普及するもとの小口決済手段の安定的な提供             |
| ユーロエリア | CBDC                        | 外国資本による決済手段が普及するもとの戦略的自律性の確保                |
| 米国     | FedNow                      | 小規模金融機関も含めた24時間送金サービスの普及<br>小口決済システムの頑健性の確保 |
| スウェーデン | Swishの<br>バックエンドシステム<br>の運営 | 小口決済システムの頑健性の確保                             |



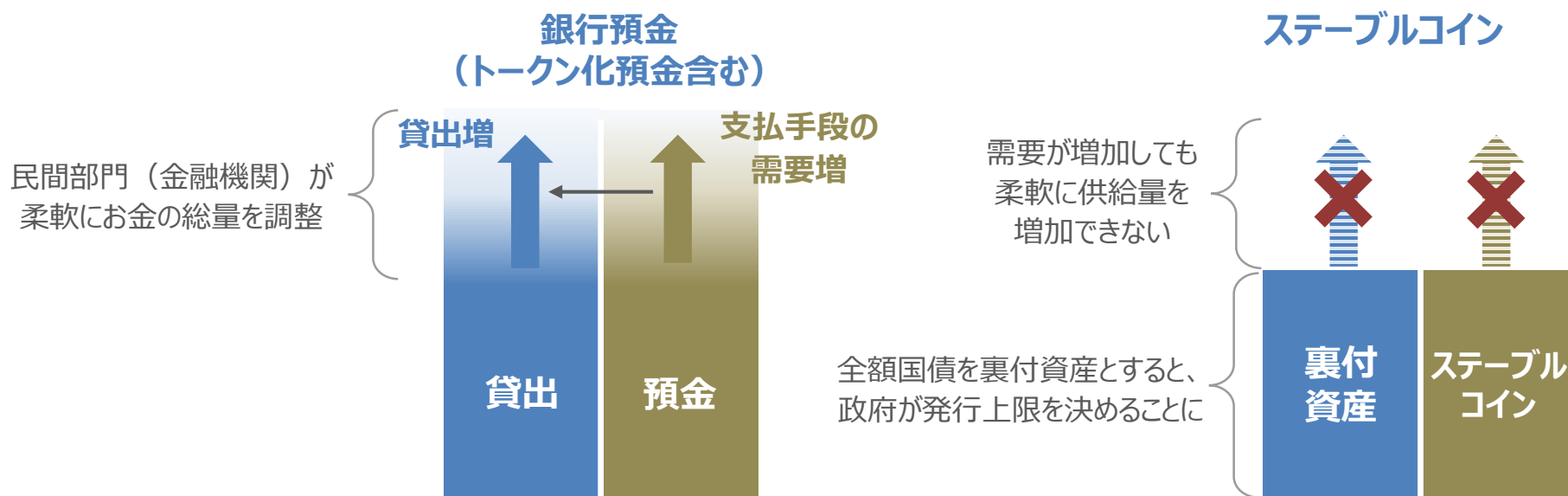
いずれの国においても、経済社会がデジタル化する中で、小口決済手段の  
ユニバーサル・アベイラビリティの確保を頑健な形でどのように達成するかが課題

## 7. 決済の未来

### ■ トークン化預金とステーブルコイン

|                 | トークン化預金 | ステーブルコイン |
|-----------------|---------|----------|
| 分散型台帳技術の活用      | ○       | ○        |
| 信用創造機能          | ○       | ×        |
| 発行者による移転の正当性の確認 | ○       | ×        |

### ■ ステーブルコインの意味合い



## 7. 決済の未来

---

### ■ 国際共通プラットフォームの考え方

- ✓ 新たな技術の台頭・地政学的な力学の作用により、国際的な通貨・決済システムの分断が生じるリスクが存在。
- ✓ 日本銀行は、国際的な共通プラットフォームを構築する場合の基本的な考え方として、以下の4原則を情報発信。

- ① オープン、透明、セキュアで、通貨主権に配慮する観点から分権的であるべき
- ② 市場の価格形成や流動性を阻害しない仕組みであるべき
- ③ 決済に係る事務処理の効率化を実現する機能を併せて用意するべき
- ④ 決済を円滑に進捗させるためグリッドロック(すくみ)解消機能や日中流動性調達機能を備えるべき

## 7. 決済の未来

### ■ CBDCの意味合い

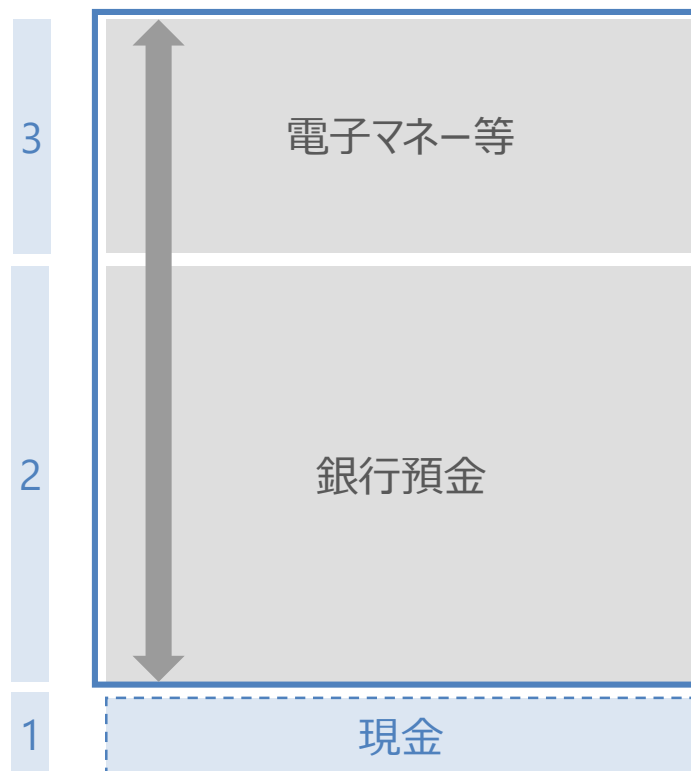
- ✓ 小口決済のユニバーサル・アベイラビリティと頑健性をいかに確保するか。

(CBDCを導入する場合)



CBDCの発行による  
小口決済手段の直接提供

(CBDCを導入しない場合)



- ① 規制・監督、オーバーサイト
- ② 中央銀行がシステムを提供